

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0866

住 所 川崎市川崎区水江町6-10

氏 名 コアレックス三栄株式会社

代表取締役社長 黒崎 暁

印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	コアレックス三栄株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区水江町6-10		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	14	パルプ・紙・紙加工品製造業
主たる事業 の内容	難再生古紙を原料として家庭紙を製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		14,207 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		31,676 t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	2020 年度 ~ 2022 年度 (報告年度 2022 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	(2022年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 75,498 (調) 34,195	(実) 67,319 (調) 25,465	(実) 58,155 (調) 21,338	(実) 60,092 (調) 18,149	(実) 74,365 (調)
削減率		(実) 10.8 % (調) 25.5 %	(実) 23.0 % (調) 37.6 %	(実) 20.4 % (調) 46.9 %	(実) 1.5 % (調) %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

原単位等の活動量	抄造量				原単位等の単位	t-CO2/ t
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標とした値	
	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	(2022年度)		
排出量原単位等の値	1.4	1.439	1.315	1.326	1.379	
活動量の値	53923	46759	44199	45301	-	
排出量原単位等の削減率		-2.8 %	6.1 %	5.3 %	1.5 %	

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	新型コロナウイルスの影響により生産調整。製品加工ラインの稼働時間減少に伴いコンプレッサー37kw*2台停止した。その他機器の運転台数も減らした。				
第2年度	排出量・原単位とも削減達成。第1年度に引き続き生産工程の設備見直しを徹底し、削減に成功した。				
第3年度	排出量・原単位とも大幅な削減達成に成功。生産工程の設備見直し並びに各工程の稼働時間の短縮を実施した。				
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)			今回の計画期間においては生産工程等の見直しを主として実施、その結果大幅な削減に成功。		
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)			次年度以降も継続的な対策に取り組んでいく。		

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 操業開始から20年経過しており設備トラブルによるタイムロスに起因する電気・ガスの利用効率悪化を防ぐため日常の保全管理を強化すること。 ・ 合理性・必要性の観点から各処理工程や設備の見直しに注力する ・ 電気や保全に関わる従業員の省エネ教育を実施する
<p>第1年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抄紙機でのロスタイムを減らす事により生産効率が向上し、電気・ガスの原単位が良くなった。 ・ 設備の見直しを行い、停止させられる設備を停止し電力の削減が出来た。
<p>第2年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抄紙機でのロスタイムを減らす事により生産効率が向上し、電気・ガスの原単位が良くなった。 ・ 設備の見直しを行い、停止させられる設備を停止し電力の削減が出来た。 (熟成スクリーブレスの停止、各工程でのポンプの運転台数の削減等実施)
<p>第3年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○設備トラブルによるタイムロスを減らすため抄紙での様々なタイムロスを減らすことで生産効率が向上し電気・ガスの原単位が良くなった ○各処理工程の合理化においては原質工程や原料受入処理工程の稼働時間の短縮を実施してエネルギーロスの改善を達成した ○従業員の省エネ教育に関しては毎朝の幹部ミーティングにおいて工場統括からCo2削減対策について様々な提案説明や指導があり幹部スタッフの意識改革がかなり進んだ
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>排出量・原単位とも大幅な削減達成に成功。生産工程の設備見直し並びに各工程の稼働時間の短縮を実施した。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()	×	
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	・低CO2川崎ブランド認定製品の生産維持
第1年度	維持継続中。
第2年度	維持継続中。
第3年度	維持継続中。

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	・エコドライブ制度への協力
第1年度	実施しませんでした。
第2年度	実施済み
第3年度	実施済み

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	44,202 t-CO ₂	36,844 t-CO ₂	31,398 t-CO ₂	28,416 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	19,871 KL	17,350 KL	15,434 KL	14,207 KL
事業所の数	1	1	1	1

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
コアレックス三栄㈱ 東京工場	川崎市川崎区水江町6-10	44,202	36,844	31,398	28,416

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度

8 事業者における基準年度からの温室効果ガスの種類ごとの排出量の推移 (4号該当者等)

温室効果ガスの種類	温室効果ガスの量 (t-CO ₂)				目標排出量 (t-CO ₂)
	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	
①非エネルギー起源CO ₂ (②除く)					
②廃棄物の原燃料使用に伴う 非エネルギー起源 CO ₂	31,296	30,475	26,757	31,676	31,296
③CH ₄					
④N ₂ O					
⑤HFC					
⑥PFC					
⑦SF ₆					
⑧NF ₃					